

エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションへの日本人専門家参加の概要

参加する専門家：（公財）東京都保健医療公社 豊島病院
感染症内科医長 足立拓也医師

訪問予定先：シエラレオネ

参加期間：平成 26 年 7 月 5 日～27 日（23 日間）

目的：エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションに専門家として参加し、現地の疾病発生及び診療・対策状況等について調査及び評価を実施するとともに、必要に応じ助言を行う。

西アフリカにおけるエボラ出血熱の発生状況（平成 26 年 6 月 30 日現在）：

国	患者数	死亡者数
ギニア	413	303
リベリア	107	65
シエラレオネ	239	99
合計	759	467

過去の実績：平成 12 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、3 回にわたり計 5 人（延べ 6 人）の専門家が派遣されています。また、平成 24 年にウガンダに、平成 26 年 5 月にリベリアに、WHO の要請を受けて、エボラ出血熱対策の専門家として、それぞれ 1 名が派遣されています。

参考（厚生労働省検疫所ホームページ）：

・エボラ出血熱

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name48.html>